



医介の

太助だより

111号

ホームページは



↑こちらから↑

発行：株式会社 介護の太助
編集：本部 令和8年9月15日

令和8年8月千葉豪雨

8月13日から14日にかけて千葉県を中心に関東地方で発生した集中豪雨について、気象庁は「令和8年8月千葉豪雨」と命名しました。気象庁が気象現象を命名するのは令和2年7月豪雨以来6年ぶりとなります。また、地域名と共に命名するのは平成29年7月九州北部豪雨以来9年ぶりとなります。

モンスーンジャイアと呼ばれる現象が発生した事により、千葉県では線状降水帯が発生し記録的な大雨となり多数の被害が発生しました。

気象庁が5月に防災気象情報運用を見直してから初めて警戒レベル5の大雨と土砂災害の特別警報が発表されました。



石川・富山・福井でも

8月27日午前6時20分、石川県能登と富山県西部に、8月30日午前4時半には、福井県福井市と大野市、勝山市にレベル5大雨特別警報が発表されました。24時間雨量は過去の記録を大幅に上回り、大雨による浸水により、道路が通れなくなり孤立する集落も発生しました。今回は、日本全国で発生確率が高まっている水害について見ていきましょう。

水害について

水害とは、大雨、台風、長雨、雪解け、高潮など、水が多すぎることで引き起こされる災害の総称です。洪水による河川の氾濫や、市街地での浸水、土砂崩れなどが含まれます。色々な情報がありますが、まずは水害の主な種類についてみていきましょう。

外水氾濫…大雨で河川の水位が上がり、堤防を越えたり堤防が壊れたりして水があふれてしまう現象
内水氾濫…降った雨が下水道や河川に流しきれず、市街地や道路に溜まってあふれる現象

土砂災害…大雨によって山や崖が崩れたり、高潮…台風や発達した低気圧が通過するとき海面（潮位）が異常に高くなる現象

水害から身を守るには

水害は予兆のあるものが多いです。空と天候の予兆は、視覚（空が暗くなるなど）や聴覚（雷鳴など）や触覚（冷たい風や大粒の雨など）の予兆があります。川や道路の予兆では、川の濁り、水位の異常、音の異変、排水の逆流などがあります。山や崖の予兆では、地鳴り、崖の変形、湧き水の変化、臭いなどの予兆があります。

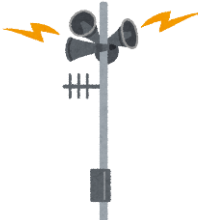
水害予兆を察知した場合は、ただちに命を守るための避難行動を開始する必要があります。状況は数分で悪化するため、準備を始めるのが大切です。事前に浸水想定や危険なアンダーパスなどを把握しておきましょう。

緊急時の心がけ

川の増水などは短時間のうちに一気に危険な状態になったりします。避難指示が出ているという事は、相当危険な状態になっているという事です。自分だけは大丈夫ではなく、警戒警報や避難指示などには速やかに従いましょう。また、単独で避難する事は非常に危険です。川に流されてしまったり、怪我をしてしまったり、救助が来るまでに長い時間がかかる事もあります。緊急時に動く際は、複数で行動するように心がけましょう。

避難グッズは非常に大切なものですが、荷物も多く持ちすぎていると行動力が鈍ってしまい逃げられなくなってしまう事がありません。必要最低限の物だけを持ち出し、機敏に行動できるように準備しておきましょう。

避難の際は誰もが慌ててしまいがちですが、お年寄りや小さな子供など、力の弱い方が危険な目に遭うケースが少なくありません。指示に従い、お年寄りや子供の避難を優先しましょう。



普段の心がけ

梅雨時や台風シーズンなど、洪水が起こりやすい時期にはテレビ・ラジオ・新聞などの天気予報に注意し、天気の移り変わりに気を付けましょう。大雨や洪水などの注意報・警報を見落とさないよう注意しましょう。

非常食を準備する際は、調理の手間がかからず、水もあまり使用しないレトルト食品や缶詰などを選びましょう。そして飲料水も忘れずに確保しておきましょう。懐中電灯や携帯ラジオ、乾電池も大切です。その他、常備薬や眼鏡、入れ歯、衛生用品なども忘れずに用意しておきましょう。

お住いの地区ごとに避難場所が定められています。自分の避難場所がどこなのか、安全に辿り着くためにはどのルートを通る必要があるのか等、平時時に確認しておきましょう。

家の周りの確認も大切です。吹き飛ばされそうなものは無いのか、雨戸や瓦、雨どいなどは傷んでないかを確認しておきましょう。また、家の前の排水溝が詰まっておきましても確認をしておきましょう。



ハザードマップの重要性

ハザードマップは、自然災害による被害が想定される区域や避難場所を地図上に示したものです。災害リスクを事前に把握し、迅速な避難行動を取るために必要な情報が載っています。国が提供している「ハザードマップポータルサイト」では、全国の詳しい災害リスク情報を簡単に調べることが出来ます。まだ確認したことのない方は、この機会に確認してみてください。

日本の亜熱帯化？

日本の夏は猛暑日から酷暑日へと変化し、熱中症リスクが高まっています。また、ゲリラ豪雨や線状降水帯による大雨が増え、洪水や土砂災害の危険度も高まっています。昔と今では全く違う「夏」となっています。過去の経験にとらわれず、最新の知識で備えておきましょう。